

読書の小径

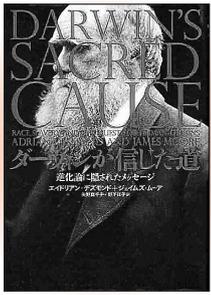
こみち

No.79

ダーウィン

今年はダーウィン生誕200年、『種の起原』出版150周年に当たり、記念のイベントや出版が相次ぎました。

内井惣七『ダーウィンの思想ー人間と動物のあいだー』。ダーウィンはいかにして生物学から神を追放し、人間と動物をつないだのか。ビッグゲームでのライエルの書物との遭遇、南米での地質学的観察、そして帰国後の思索の歩みをじっくりとたどります。自然淘汰や種の分岐、さらに道徳の進化について、明快に説きほくしていきます。ライエル、ウォレス、ハクスリーなど、同時代人との根本的な違いも



市図書館 ☎ 1253

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※ が休館日です

開館時間

火～金曜日……………10:00～19:00
土・日曜日、祝・休…10:00～17:00

※図書館のご利用は無料です

明らかにされます。

ジャネット・ブラウン『ダーウィンの「種の起原」』。「進化論」を高度な理論にまで高めた画期的な書『種の起原』誕生の経緯から、出版当時どのような称賛と批判を受け、さらに今日に至るまで名著として輝きを放ち続けているのかを、分かりやすく解き明かします。

エイドリアン・デズモンド(他)『ダーウィンが信じた道ー進化論に隠されたメッセージー』。科学史上最も重要な発見の一つである「進化論」は世界を揺るがしました。その進化論の背景には、ダーウィ

ンの奴隷制に対する激しい憤りと奴隷制度撲滅への熱い情熱があったことを多くの資料書簡やノートから論証したのが本書です。ちなみに奴隷解放の父と呼ばれたリンカーンも1809年2月12日生まれでダーウィンと同じ誕生日です。

では、この有名な著作を実際に読んでみようという方にはチャールズ・ダーウィン『種の起原ー原著第6版』を。1859年の初版刊行以来、各方面からのさまざまな批判や反論にこたえる形で改訂を重ね、最後に著された第6版(1872年)の全訳です。

12月

催し物だより

陶史の森 ネイチャーセンター ☎ 5144

楽しい絵手紙教室

日時 12月6日(日)

午前9時～11時30分

(雨天実施)

内容 自然を題材にして絵手紙を作る。
※事前に申し込みが必要



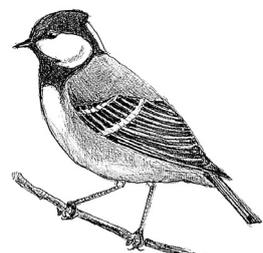
バードウォッチング

日時 12月20日(日)

午前9時～11時30分

(雨天中止)

内容 冬の野鳥観察
※参加は自由



★陶史の森の催しは、お一人でも参加できます。ただし、低学年児童は、親子でご参加ください。

ヒガラ(シジュウカラ科)
シジュウカラより小さく、ネクタイ模様が無い。山地の針葉樹がある林の上部を好む。
秋冬は低地でも見られる。
「ツーツー、チー」と鳴く。

お願い 陶史の森は、動植物を保護しています。山野草やミズゴケなどを絶対に採らないでください。また、陶史の森およびせせらぎ公園へのペット連れでの立ち入りはご遠慮ください。